

巻頭言 口腔悪習癖

一般社団法人青森県歯科医師会 学校歯科委員会 委員長 村上 淳一

皆さんは無意識に行っている『癖』が、歯ならびやかみ合わせに影響していることをご存知でしょうか？ 小さな力でも繰り返しかかることで歯は少しずつ移動したり傾斜したりします。特に成長期の子供の場合、日ごろの悪い癖が歯ならびや顎の発達に大きく影響を及ぼすことがあります。こうした癖を『口腔悪習癖』といいます。『口腔悪習癖』をできるだけ早期に発見し、介入することで、歯列不正や咬合異常、顎顔面の変形を予防し、正常な発育を促すことができます。『口腔悪習癖』の治療は、心理療法・認知行動療法的なアプローチとMFT（口腔筋機能療法）が主体となり、時には習癖除去装置を使用する場合があります。

学校保健安全法施行規則の一部改正により、平成28年4月1日より保健調査（健康診断の事前調査）の実施が定められました。学校歯科委員会では、従来の調査票をより記入しやすく簡素化するとともに、末尾に『口腔悪習癖』についての調査項目を設けた新調査票を提案させていただきました。習癖や生活習慣の改善には本人の自覚と家族の協力が欠かせません。ぜひ親子で相談しながら調査票を記入していただき、病気だけでなく口腔の機能や発育について話し合うきっかけになればと願っています。

歯科保健図画・ポスター・歯科啓発標語コンクール 結果



保育園の部
八ッ橋保育園（青森市）山崎望睦さん



幼稚園の部
いちい幼稚園（三沢市）木村琥太郎さん



小学校低学年の部
六戸町立開知小学校1年
ベイツェンダーさん



小学校高学年の部
六戸町立開知小学校6年
小林竜樹さん



中学校の部
八戸市立三条中学校3年
小田桐梨乃さん



高等学校の部
北斗高等学校 卒業年次
木村葉里さん

きれいな は ぼくのひけつは すなどけい

平川市立平賀東小学校1年 こがわいぶきさん

報告

平成28年度青森県学校歯科保健研究大会

～児童生徒の生活習慣を口腔衛生の立場から考える～

日時：平成28年7月29日(金) 場所：青森市「青森県歯科医師会館」
主催：青森県教育委員会・青森県歯科医師会 共催：青森県学校保健会

学校歯科委員 村田 浩伸（青森市歯科医師会）



参加者 107 名のもと盛会に開催された。
午前の部の実践発表は、各学校で児童生徒の理解力に応じた適切な保健教育がなされ、う歯のみならず歯肉炎に対する保健指導にも取り組まれている様子が伝わる内容だった。また、家庭での保健指導の重要性は各校で唱えられており、高等学校では夜のブラッシングの大切さについて述べられた。さらに小規模校では、全体はもちろんのこと個に対する細やかな指導にも取り組んでいる様子や、地域で食育に取り組む姿勢も発表された。

続いてライオン歯科衛生研究所保健研究部長稲葉卓氏より「小学生歯みがき大会」が紹介された。青森県は全国的にみて参加校が多く、引き続き次年度も多く学校の参加を促された。

午後の部は開会行事から始まり、ご来賓の青森市教育委員会成田一二三教育長より、生活習慣病予防は家庭と学校の両方の教育が必要で、ネグレクトや部活動での歯の損傷等に対応する為にも教育現場と学校歯科医との連携が必要であるご祝辞を頂いた。

続いて、青森県歯科医師会工藤眞裕副会長を講師に「スポーツ歯科と安全—口腔外傷の予防から対処まで—」の講演が行われた。学校安全の領域と構造、学校での歯や口のけがの発生要因を考え危険排除の為の危険予測学習の重要性、外傷発生時の対応、外傷発生割合の推移、外傷多発傾向の場面、外傷の種類を話された。また、外傷で抜けた歯の再植には、歯の保存液（テイスキーパーネオ）の利用が有益で、学校やスポーツクラブでは常備を推奨すること、口腔外傷予防の為には歯科医院で作製したマウスガードの装着を推奨すると講演された。

最後は学校歯科委員工藤淳治より「青森県の学校歯科の現状」について、全国と比較するとDMF 歯数は高く、また、全国平均は年々減少傾向だが、本県は足踏み状態で改善されていない

現状と、地域差が大きいこと、つがる市でフッ素洗口が開始される為、今後のデータに注目したい等報告があった。

次に、学校歯科委員会副委員長佐々木光平より「平成28年度学校歯科健診の改定について」と「事前質問の回答」について話された。（下に記載）

来年は第81回全国学校歯科保健研究大会が開催されるため、この大会の開催はないが、ぜひ全国大会に足を運び、全国の取組を参考にして頂きたい。

大会内容

(1) 実践発表 (10:35 ~ 11:35)

小学校：八戸市立種差小学校 養護助教諭 岩沢裕子氏
中学校：六ヶ所村立第二中学校 養護教諭 佐藤智美氏
高等学校：県立五所川原農林高等学校 養護教諭 成田みどり氏

(2) 小学生歯みがき大会の紹介 (11:35 ~ 12:00)

公益財団法人ライオン歯科衛生研究所保健研究部長 稲葉卓氏

(3) 講演 (13:05 ~ 14:15)

「スポーツ歯科と安全—口腔外傷の予防から対処まで—」
講師 一般社団法人青森県歯科医師会副会長 工藤眞裕氏

(4) 報告 (14:25 ~ 15:35)

「青森県の学校歯科の現状」～平成28年度歯科データから～
講師 学校歯科委員会 委員 工藤 淳治
「平成28年度 学校歯科健診の改定について」
講師 学校歯科委員会 副委員長 佐々木 光平

事前質問への回答

Q1 COが多数認められた場合にも、CO要相談で受診をすすめますが、その場合、歯科ではどのように診療、治療をすすめるのか、内容を具体的に教えて欲しいです。

A. COはむし歯ではないため、これ以上悪くならないように経過観察、フッ素塗布等を行います。ただし、COが健全歯になるにはいくつものよい要素が重なった状態が2年、もしくはそれ以上続くことが必要で、簡単な事ではありません。COが多数みとめられた場合は児童虐待（ネグレクト）が疑われることもあるため、歯科医院では口の中だけでなく総合的に観察することもあります。

Q2 かなり前のことですが、上顎の前歯が何本もむし歯になっていることを「スポーツドリンクむし歯」と聞いたことがあります、記憶違いでしょうか？

A. スポーツドリンクに限らず、pH 5.5 以下になると歯のエナメル質が溶け、むし歯になりやすくなります。炭酸飲料等も同じです。こまめに飲んでいると口の中が常に酸性になり、何本もむし歯になってしまうことがあります。スポーツドリンク等、酸性が強い飲み物を飲んだ後は歯を磨くことが好ましいですが、難しい場合は、うがいをしたり、真

水を飲んだりして口の中を中性にすることが効果的です。

Q3 口腔の外傷時、口唇の縫合はどこの歯科医院でもしてもらえるか。

A. どこの歯科医院でも抜歯後はほぼ縫合しますし、舌小帯の手術の際にも縫合します。特殊な事例でない限り歯科医院で対応できるものと思われます。

Q4 中学校での歯科衛生指導と最近の歯ブラシ選びについて学びたいと考えています。(歯ブラシは、コンパクトだけでなく幅広いのも市販されるようになってきているため)

A. 近年の歯ブラシはこの製品のどんな形状のものを使用しても問題ないと思われます。大切なのは歯の磨き方やブラッシングにどれだけ長い時間を費やせるか。つまり、時間が足りないといつも同じところばかり磨けていて、磨かれない部分はどんどん歯垢が増えてきます。隅々まで磨いて歯垢という、借金を作らないことが大切です。ただ、大きな口にもあまりにも小さすぎる歯ブラシや小さな口に大きすぎる歯ブラシは磨きにくいので勧めません。

報告

平成28年度青森県歯科保健表彰式 ～学校歯科部門～

日時：平成28年10月30日（日）14:00
 場所：青森県歯科医師会館 3階大ホール

今年度も、たくさんの受賞者にお集まりいただき開催されました。学校歯科部門の結果は下記のとおりです。

なお、表彰式の様子は青森県歯科医師会ホームページに掲載されておりますのでぜひご覧ください。

(ホームページアドレス <http://www.aomori-da.org/>)



平成28年度 青森県歯科保健表彰式 (平成28年10月30日)

◆学校歯科保健優良校表彰結果

※敬称略

		小学校		
		小規模校の部(0～7学級)	中規模校の部(8～15学級)	大規模校の部(16学級以上)
県一		深浦町立いわさき小学校	六ヶ所村立南小学校	三沢市立木崎野小学校
準県一		三沢市立三川目小学校	八戸市立根岸小学校	弘前市立豊田小学校
		中学校		
		小規模校の部(0～10学級)	大規模校の部(11学級以上)	
県一		深浦町立岩崎中学校	応募なし	
準県一		平内町立西平内中学校		
		高等学校の部	特別支援学校の部	幼稚園の部
県一		応募なし	応募なし	応募なし
準県一				



◆歯・口の健康児童表彰結果

※敬称略

～歯・口の健康児童 県審査会の様子～

		学校名・学年・氏名			結果
男子		青森市立筒井南小学校	6	菊地 漱隼	入選
		弘前市立豊田小学校	6	石岡 誠雄	入選
		八戸市立中居林小学校	6	森川 陽翔	入選
		黒石市立北陽小学校	6	中西 大翔	入選
		五所川原市立東峰小学校	6	土岐 隼冬	健康歯肉大賞
		つがる市立向陽小学校	6	寺山 雄介	入選
		むつ市立苫生小学校	6	鈴木 瑳亮	歯列咬合大賞
		三沢市立岡三沢小学校	6	安井 壮汰	県一
		階上町立道仏小学校	6	奥沢 成海	準県一
女子		青森市立佃小学校	6	伊谷 和	準県一
		弘前市立城西小学校	6	田中はる奈	健康歯肉大賞
		八戸市立是川小学校	6	岡村 瑠奈	入選
		大鰐町立大鰐小学校	4	須藤 堇	入選
		五所川原市立中央小学校	6	織田 恭佳	県一
		つがる市立稲垣小学校	5	長内 麻緒	入選
		むつ市立奥内小学校	6	二本柳美帆	入選
		野辺地町立野辺地小学校	5	丹代 璃音	入選
		南部町立名川南小学校	5	中山 滯	歯列咬合大賞

※県一を受賞されたお二人の口腔内写真を冊子8ページに掲載いたしました。健康できれいな模範例です。



◆図画・ポスター・標語コンクール結果 表紙をご覧ください。

調査報告

平成28年度歯科保健調査報告

平成28年度の学校歯科保健統計より

学校歯科委員 工藤 淳治 (弘前歯科医師会)

平成28年度の学校歯科保健調査統計が文部科学省より公表され12歳児永久歯の1人当たりの平均むし歯(う歯)は0.84本で昨年度より0.06本減少し、過去最低を更新しました。昭和59年より調査開始年度の4.75本以降減少を続けています。0.84本の内訳は喪失歯数0.01本、むし歯0.83本(処置歯0.51本、本未処置歯数0.31本)です。前年度の0.89本に比べ0.06本の改善となりました。

処置完了者を含めたむし歯の者の割合も、小学校、中学校、高等学校でいずれも低下しており、過去最低となっています。

青森県も減少傾向は続いていて、今年度は12歳児のDMF歯数が1.31本で昨年の1.42本より改善し最近続いていた足踏み傾向は払拭された形になりました。

青森県内のう歯罹患率の地区別比較に関しては、罹患率の低い東青、三八地区と、う歯罹患率の高い西北、下北地区との差で地域差が大きく開いています。

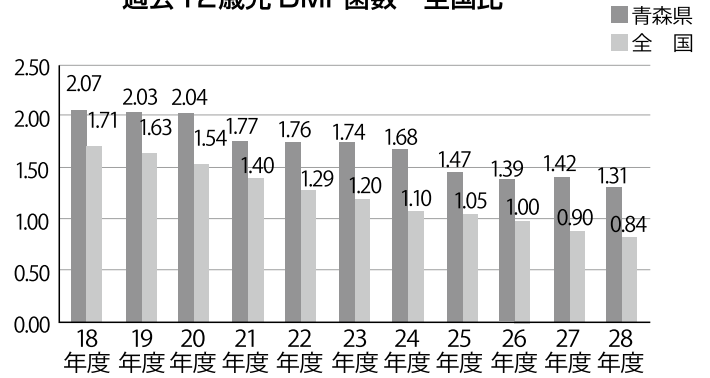
12歳児において、青森市(0.88本)新郷村(0.29本)三沢市(0.60本)など優秀な地区や、板柳町(2.98本)横浜町(2.77本)大間町(2.52本)など全国平均の2倍以上の地区もあり各市町村間の格差も大きく、青森県全体の底上げをするための分析、対策がさらに必要と思われます。

永久歯の1人当たり平均う歯等数(12歳児)

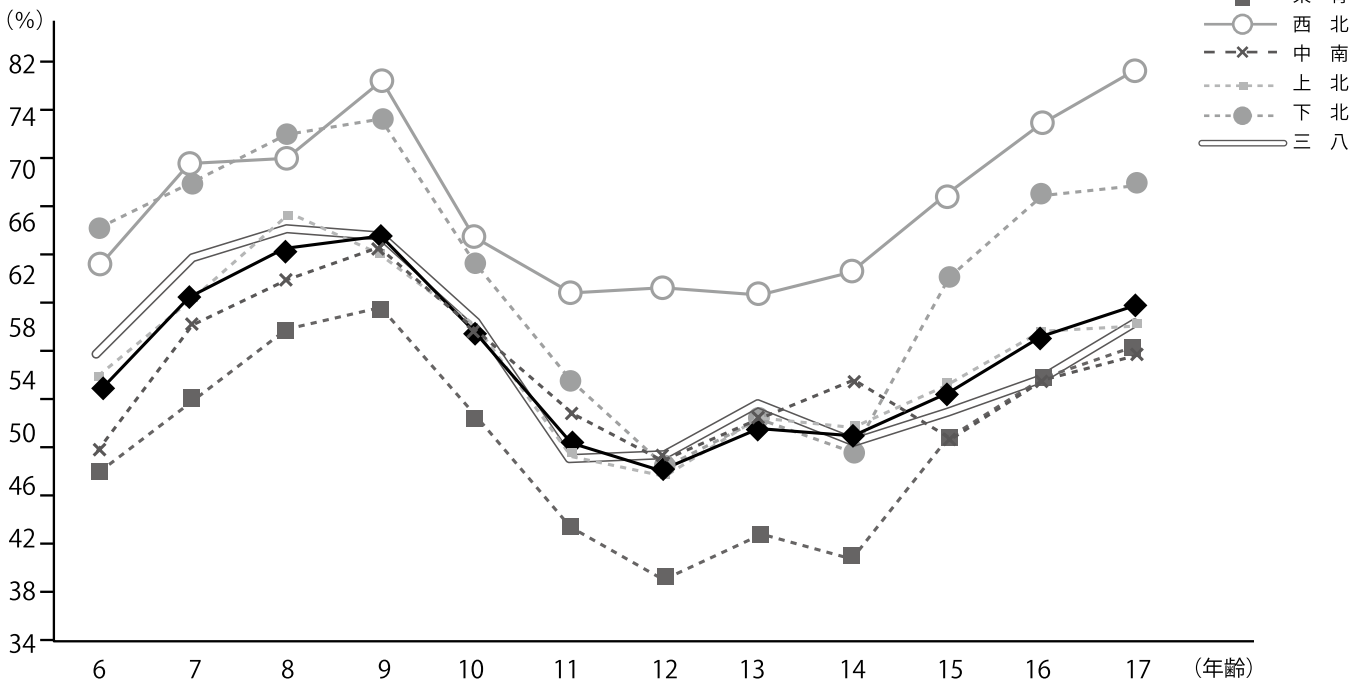
区分 国・県・年度		計 (本)	喪失 歯数 (本)	う 歯		
				計 (本)	処置 歯数 (本)	未処置 歯数 (本)
全国	平成27年度	0.90	0.01	0.89	0.55	0.34
	平成28年度	0.84	0.01	0.83	0.51	0.31
本県	平成27年度	1.42	0.01	1.41	0.86	0.54
	平成28年度	1.31	0.01	1.29	0.81	0.47

「平成28年度児童生徒の健康・体力」より

過去12歳児 DMF歯数 全国比



う歯被患率地区別比較(男女合計)



「平成28年度児童生徒の健康・体力」より

平成28年度青森県市町村別DMF歯数(学年別)

市町村名	小5年	小6年	中1年 (12歳児)	中2年	中3年	高1年	高2年	高3年
青森市	0.43	0.56	0.88	1.27	1.41			
弘前市	0.71	1.03	1.36	1.80	2.35			
八戸市	0.61	0.78	1.23	1.69	1.89			
黒石市	1.15	1.59	2.08	2.85	3.91			
五所川原市	1.51	2.04	2.15	2.26	3.06			
十和田市	0.50	0.66	1.45	1.85	1.90			
三沢市	0.38	0.44	0.60	1.01	1.05			
むつ市	1.04	1.20	1.33	2.06	2.01			
つがる市	0.48	0.96	2.00	2.27	2.83			
平川市	0.99	1.12	1.44	1.98	2.22			
平内町	0.61	1.04	0.98	2.10	2.20			
今別町	0.90	0.38	1.63	3.27	2.85			
蓬田村	0.65	1.56	0.82	1.39	1.48			
外ヶ浜町	1.35	1.00	1.67	2.23	2.13			
鱒ヶ沢町	1.97	2.39	2.15	2.78	3.09			
深浦町	0.36	0.87	1.29	1.55	1.85			
西目屋村	0.40	1.25	-	-	-			
藤崎町	0.63	0.81	1.90	2.01	2.95			
大鰐町	0.53	0.33	0.85	1.03	1.04			
田舎館村	0.71	0.82	1.88	2.98	1.91			
板柳町	0.89	1.37	2.98	2.70	3.23			
鶴田町	0.63	0.54	1.36	1.19	1.63			
中泊町	0.96	0.83	2.16	1.40	2.18			
野辺地町	0.44	1.38	2.33	1.34	1.90			
七戸町	0.45	0.57	0.86	1.75	2.39			
六戸町	0.72	1.38	0.89	1.10	0.85			
横浜町	1.53	2.24	2.77	3.19	4.06			
東北町	0.84	0.98	1.80	2.53	1.84			
六ヶ所村	1.40	1.32	1.44	1.61	2.17			
おいらせ町	1.05	0.85	1.72	1.62	1.77			
大間町	1.57	2.04	2.52	2.64	3.09			
東通村	1.53	0.85	1.98	2.90	3.56			
風間浦村	0.94	1.71	0.50	1.07	1.67			
佐井村	0.67	0.24	1.10	1.59	0.95			
三戸町	0.45	0.89	1.63	2.41	2.22			
五戸町	0.48	1.04	1.07	1.10	0.97			
田子町	0.38	0.24	0.81	1.07	1.48			
南部町	0.52	1.08	2.12	2.49	2.03			
階上町	0.65	0.64	1.49	1.37	1.66			
新郷村	0.15	0.75	0.29	1.36	0.86			
計(学年)	0.68	0.88	1.31	1.70	1.96	2.33	2.80	3.10
計(学校種)	0.46		1.66			2.74		

報告

一般社団法人日本学校歯科医会
「学校歯科医生涯研修制度 基礎研修」
講師のための特別講義

学校歯科委員 工藤 康之 (南黒歯科医師会)

平成28年4月24日(日)午後1時より日本歯科医師会館において平成28年度の学校歯科医生涯研修制度 基礎研修が開催されました。

はじめに今年度より日本学校歯科医会会長に就任された丸山進一郎先生および生涯研修制度運営委員会委員長で明海大学学長でもある安井利一先生よりご挨拶をいただき、各講師の先生方や理事の先生が紹介された後に研修会が開催されました。

講義1 「学校歯科保健の概念」と題して常務理事の野村圭介先生より解説。学校とはどんな所か?また学校における学校歯科医の立場について講演をしていただきました。

講義2 「学校歯科保健における保健教育」についての解説として東京女子体育大学教授の戸田芳雄先生より講演いただきました。学校における保健教育は「保健学習」および「保健教育」に分かれるが、その目的は時代を超えて変わらない健康課題や日々生起する健康課題に対して、一人ひとりがよりよく解決していく能力や習慣を身につけ、生涯を通じて健康で安全な生活を送る事が出来るようにすることである、とのこと。幼稚園、小学校、中学校、高等学校そして特別支援学校それぞれの場所における歯科保健活動についての説明もしていただきました。

講義3 「学校歯科保健における保健管理」についての解説は東京医科歯科大学名誉教授の黒田敬之先生および安井利一先生の両名によって歯列、咬合、顎関節の検診に際しての平成28年4月1日からの変更点についての説明をしていただきました。

①小学校の健康診断を低学年と高学年に区分し、発達段階に分けての診査基準の設定 ②保健調査票の導入 ③児童自らの健康の啓発

講義4 「学校歯科保健における組織活動」

小暮義弘先生による講演では学校歯科保健における「組織活動」の必要な理由。歯科医と学校における個別目標の設定。教員やPTAに対する研修。地域との連携の重要性や学校間の連携の在り方について。そして学校歯科医に望むこととして、①積極的な情報発信 ②気さくな態度でのコミュニケーションを挙げられました。

以上4つの演題を終えた後、質疑応答が行われましたが、各地域の先生方より多くの質問が出されたため、やや時間を超越しましたが、盛会のうちに研修会の方も終了となりました。

参考文献：学校歯科医生涯研修テキスト 第三版



①会場の日本歯科医師会館



②丸山進一郎会長による挨拶

特集

つがる市に於けるフッ化物洗口開始までの経緯

学校歯科委員 葛西治千代 (西つがる歯科医師会)

以前より三沢市の12歳児DMF歯数を注視しておりました。三沢市では10年ほど前から市が主体となりフッ化物洗口を行っています。毎年の学校歯科委員会だよりの歯科保健調査報告にありますように、三沢市のデータは他の市町村に比べる蝕の罹患率が少なく全国レベルにあります。

また平成27年度青森県市町村別DMF歯数(学年別)では、小学5年では差がありませんが学年が上がるに従って大きくなり、特に中学2、3年で顕著になります。そこで私が学校歯科医を担当しております、つがる市立向陽小学校の校長先生にお願いし、西つがる歯科医師会よりフッ化物の提供を受け、3年前からフッ化物洗口を開始しました。

フッ化物洗口を勧めるに当たりその根拠となったのは、『生きる力』をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり(文部科学省)154ページにあります「フッ化物洗口ガイドラインについて」です。私が有効と考える取組が既に10年以上前、平成15年1月30日、文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課より各都道府県に通達されています。

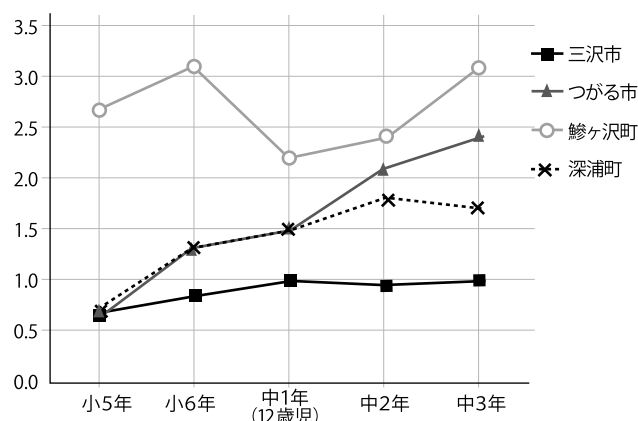
そこで更なる働きかけをと、平成26年のつがる市健康づくり推進協議会の会議に於いて、青森県のう蝕被患率地区別比較(男女合計)(図1)、三沢市と主要3市および西北五の市町の12歳児DMF歯数過去4年分(表1)

と三沢市と西つがる3市町の学年別DMF歯数(表2、図2)(平成27年度データ使用)

表2 三沢市と西つがる3市町の平成27年度学年別DMF歯数

市町村名	小5年	小6年	中1年(12歳児)	中2年	中3年
三沢市	0.63	0.84	1.00	0.94	0.99
つがる市	0.62	1.28	1.49	2.09	2.41
鱒ヶ沢町	2.06	3.12	2.23	2.41	3.11
深浦町	0.68	1.31	1.50	1.79	1.69

図2 三沢市と西つがる3市町の平成27年度学年別DMF歯数



を提示し比較検討して頂いたところ、各委員からフッ化洗口に対し賛同を頂き健康推進課で検討することとなりました。その後、あらためて健康推進課から来年度よりフッ化物洗口を開始したい旨連絡を頂き、現在に至っております。

また、つがる市立向陽小学校のフッ化物洗口開始を受け、鱒ヶ沢町に於いても平成27年7月よりフッ化物洗口が開始されました。鱒ヶ沢町に於いては西つがる歯科医師会会長の金澤先生が健康づくり推進協議会の委員をされておられ、ご尽力の成果と思っております。他にも田子町でも保育園、幼稚園でフッ化物洗口を開始するとのことです。

しかしながら、つがる市健康推進課が、平成27年度からの実施に向け準備を進める中、行ったアンケートには、つがる市校長会から多くの疑問・反対意見が寄せられました。極めて率直にこれ以上学校の負担を増やして欲しくないというものから、効果への疑問、フッ化物の取り扱いに対する不安、管理責任の有り方等多岐に渡りますが、殆どの先生方が前述の「フッ化物洗口ガイドラインについて」をご存知なく、正しい知識、理解のないまま実施に対して難色を示されたことは真に残念でした。これからもガイドラインの一層の周知を計り、フッ化物洗口が一校、二校と広がって行くよう息の長い働きかけが不可欠と思われまます。

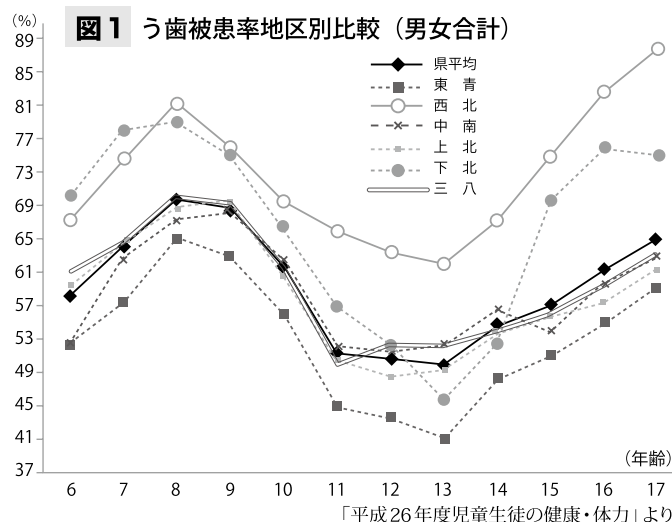


表1 三沢市と主要3市および西北五の市町の12歳児DMF歯数過去4年分

市町村名	23年度	24年度	25年度	26年度
三沢市	0.61	0.79	0.78	0.79
青森市	1.59	1.58	1.21	1.01
弘前市	2.05	1.65	1.46	1.59
八戸市	1.40	1.49	1.30	1.36
五所川原市	2.04	2.35	2.17	2.34
板柳町	3.30	2.76	2.04	2.89
鶴田町	1.82	2.22	1.27	1.28
中泊町	2.61	2.00	2.20	2.24
つがる市	1.69	1.79	1.78	1.68
鱒ヶ沢町	2.53	1.66	2.84	2.43
深浦町	2.61	2.34	1.04	1.33

お知らせ

保健調査(事前の保健調査)票について

学校保健安全法施行規則の一部が改正により平成28年4月1日より保健調査(健康診断の事前調査)の実施が定められました。昨年は日本学校歯科医会が作成した保健調査票(歯科用)をご紹介いたしました。その後、歯科健康診断の終了を待って、養護教諭の先生方を対象に保健調査についてアンケートを実施しました。その結果と、東北各県での保健調査実施状況を参考にして、本会学校歯科委員会において検討、作成した様式案を平成28年12月21日付でご案内しております。学校歯科医と相談していただき、ご利用下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

保健調査票は全県での統一を目指すものではなく、必要に応じて、各地域、各学校の実情に合わせた項目の増減、変更は可能であることを申し添えます。

来年度の予定

募集関係

■ 図画・ポスター・標語コンクール

締切 平成29年6月29日(木)

審査会 平成29年7月1日(土)

金賞作品展示予定

○29.10.26(木)

「第81回全国学校歯科保健研究大会」(予定)

○29.11.3(金・祝)「青森県歯科保健表彰式」

■ 青森県歯科保健優良校表彰書類審査会

平成29年9月30日(土)

※締切は地区により異なりますので、要項をご覧ください。

県審査会への締切(地区から県へ)

平成29年9月15日(金)

■ 「歯・口の健康児童」県審査会

平成29年11月3日(金・祝)

青森県歯科保健表彰式開催前

※締切は地区により異なりますので、要項をご覧ください。

県審査会への締切(地区から県へ)

平成29年9月22日(金)

※募集要項は4～5月に各園、学校へメール通知または郵送されます。また、本会ホームページへも掲載予定です。応募の際は募集要項をご確認の上、各園、学校で取りまとめてご応募下さい。

大会関係

■ 第81回全国学校歯科保健研究大会

(青森市 リンクステーションホール青森)

平成29年10月26日(木)～27日(金)

■ 平成29年度全国学校保健・安全研究大会

第67回全国学校歯科医協議会

(三重県津市 三重県総合文化センター)

平成29年11月16日(木)～17日(金)

DVDで参加する
「第74回全国小学生歯みがき大会」

大会期間：平成29年6月1日(木)～10日(土)

参加対象：小学校4～6年生(いずれか1学年)

申込期間：平成28年12月～平成29年2月28日(火)

※定員になり次第締切となります。

申込方法：ライオン歯科衛生研究所のHPにてお申込み下さい。

次回より期間中にDVDを視聴して参加できる新しい方式で実施されることになりました。学校ごとに日程を設定できる為、より参加しやすくなりました。

30年度の申し込みは29年12月頃の予定です。

第73回大会青森県参加校

青森市	奥内小学校 女鹿沢小学校 後潟小学校 荒川小学校 佃小学校
弘前市	大和沢小学校 大成小学校 相馬小学校
八戸市	小中野小学校 八戸第一養護学校
黒石市	中郷小学校 東英小学校 北陽小学校 六郷小学校 黒石小学校
十和田市	西小学校
三沢市	岡三沢小学校
むつ市	川内小学校 正津川小学校 第一田名部小学校 第三田名部小学校 関根小学校
つがる市	稲垣小学校 向陽小学校
平川市	金田小学校 大坊小学校
野辺地町	若葉小学校 馬門小学校 野辺地小学校
横浜町	横浜小学校
おいらせ町	下田小学校 甲洋小学校
大間町	大間小学校
三戸町	斗川小学校
南部町	福田小学校 杉沢小学校 向小学校
六ヶ所村	南小学校

～歯みがき大会への想い～

歯みがきはむし歯予防のためだけにするものではありません。

口は人間にとってとても大切なもの。
ご飯を食べ、だれかと話し、大きな声で笑う。

その大事な口をていねいに見つめて、
見えないところまでも清潔にできもちよく保つ、それが歯みがきです。

ただ、歯みがきを毎日ちゃんとやるのは案外大変なこと。
なんとなく歯みがきをしたからこれでいいや、と終わらせてしまうこともある。
今日サボったくらいではむし歯にならないし、だれにも怒られません。

でも、そんな自分を見ている人が1人だけいます。
それは、今の自分の積み重ねの先にいる未来の自分。
未来の自分だけはごまかせない。

だからこそ、今日できることをちゃんとやろう。
歯みがきも、勉強も、スポーツも、
今日、いま、この瞬間をやりきっている人を応援します。

歯と自分をみがこう。

全国小学生歯みがき大会

編集後記

子供にとって母親ほど頼りになる存在はない。そんな存在を裏切ってしまう若い母親があとをたたない。(母親ばかりではないが) 残酷非道な人間を「鬼のような…」などと表現するが、このような母親には「鬼の目にも涙」ってものがないのだろうか。

学校歯科委員会でも児童虐待防止に取り組んでいるがニュースで報道されるのは氷山の一角にすぎないだろう。

一日も早くこのようなニュースが減っていくことを願うばかりである。
学校歯科委員会副委員長 佐々木 光平

「歯・口の健康児童」県一受賞者

三沢市立岡三沢小学校
6年 安井壮汰さん



五所川原市立中央小学校
6年 織田恭佳さん



第55回全日本学校歯科保健優良校

[奨励賞]

八戸市立種差小学校

三沢市立三沢小学校

青森県立森田養護学校

第81回
全国学校
歯科保健
研究大会
2017 10.26(木)/27(金)
リンクステーションホール青森
(青森市文化会館)

第81回全国学校歯科保健研究大会が青森市中心部を会場として、本年の10月26日、27日に開催することが決定致しました。

副題は「学校歯科保健からはじまるSDG20健康社会」となりました。学校歯科保健の中での早期健康教育は、子供たちの健康を守り、ひいては地域住民の健康を守ることに繋がります。歯と口の健康づくりは、将来の歯の喪失リスクを軽減し、背後にある生活習慣をも改善します。

過去の大会を振り返り未来を展望しながら、参加される皆様方に共鳴して頂ける大会にしたいと考えていますのでたくさんのご参加をお待ちしております。

一般社団法人
青森県歯科医師会
会長
山口勝弘



発行者／一般社団法人青森県歯科医師会 〒030-0811 青森市青柳一丁目3-11 TEL017-777-4870 FAX017-722-4603
学校歯科委員／委員長：村上 淳一 副委員長 佐々木光平
委員：村田 浩伸、工藤 淳治、堀部 崇、工藤 康之、小林 寛志、葛西治千代、千代谷良子、稲村 裕之

この学校歯科委員会だよりは青森県歯科医師会ホームページでもご覧いただけます。青森県歯科医師会ホームページアドレス：<http://www.aomori-da.org/>